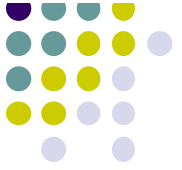


平成28年12月3日（土）

平成28年度 函館市地域ケア会議 第3回目

平成28年度 地域ケア会議

「認知症高齢者模擬捜索」を通じて



深堀町会より

高齢者あんしん相談窓口
函館市地域包括支援センターゆのかわ
社会福祉士 森 健二

模擬検索とは

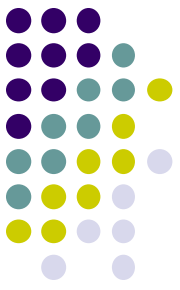


- ①地域（検索エリア）に認知症高齢者（役）を配置
- ②3人前後のグループで探す
- ③発見したら実際に高齢者（役）へ声をかける
- ④自宅に帰る同意を得て終了

模擬検索を実施する目的

- 認知症について理解を深める
- 実際に地域を歩いて探し、認知症の高齢者への声かけを体験することで、対応の難しさを知る。
- 地域の良いところ、課題について考えるとともに皆が暮らしやすい地域を考える

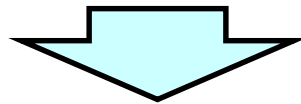
模擬検索を実施するまでの背景



H27年度の地域ケア会議でも模擬検索を実施

【参加者数】 **201名**（全6回）

【参加対象者】 民生委員、町会役員、在宅福祉委員
介護保険事業所職員、行政職員 など



【模擬検索開催から見えた課題】

- **一般の地域住民**の認知症に対する理解が必要
- 子どもや働き手世代など**多世代**の関心を高め、協力できる体制が必要

模擬検索を実施するまでの背景



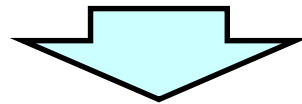
H28年度の地域ケア会議

【一般の地域住民、多世代参加に向けて】

◎対象地域を町会単位と限定して実施

→ 町会を通じて一般の地域住民への参加を促す

◎小学生の参加へ向けた学校との打ち合わせ など



町会のご協力のもとに

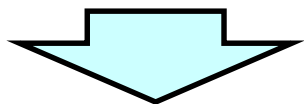
①10月29日（土）：深堀町会

②11月 5日（土）：湯川三丁目町会 で実施

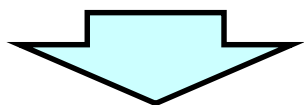
ケア会議の流れ



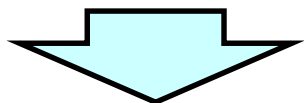
① 講話「認知症について」



② 模擬搜索オリエンテーション



③ 模擬搜索



④ 意見交換



高齢者の特徴

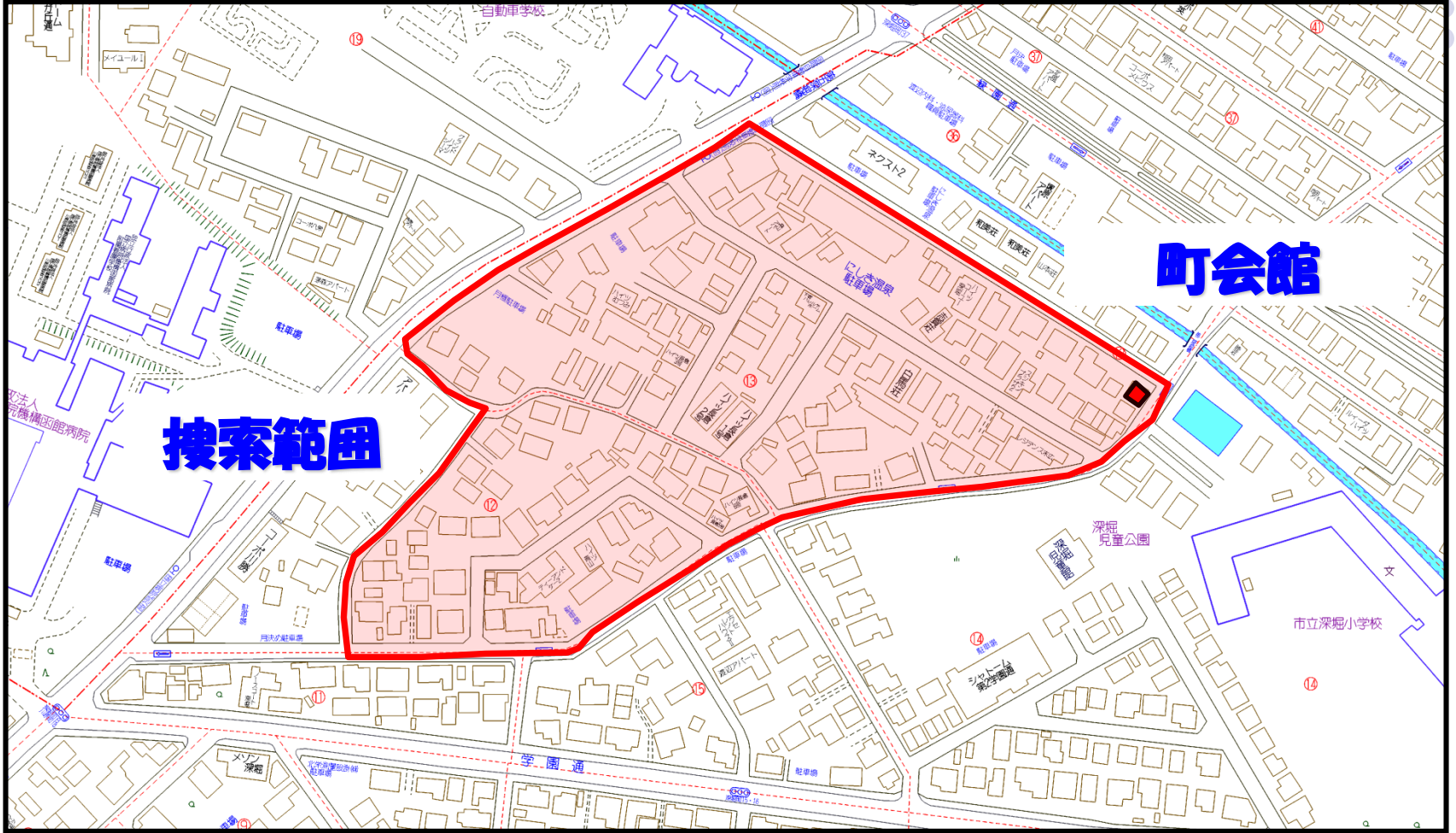


- **名前：佐々木 康寛（ささき やすひろ）**
- **男性、〇〇町在住**
- **昔は福祉関係の仕事をしていた**
- **妻と二人暮らし**
- **いつもみどりのタオルを首に巻いている**



**高齢者役は
別人です**

搜索範囲



深堀町会より

模擬搜索の流れ



**高齢者（役をした職員）が
自宅に帰れず迷っています**

模擬搜索の流れ



それぞれの班で出発し

地図で搜索範囲を確認します

模擬捜索の流れ



**高齢者を発見した際
まずは様子を見守ります**

模擬搜索の流れ



実際に声をかけてみます

模擬搜索の流れ



探している高齢者であることを確認！

模擬搜索の流れ



一緒に自宅へ戻ることの同意を得ます

➡ 搜索はここで終了です

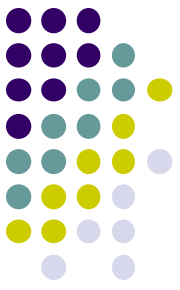
意見交換



① 模擬搜索の感想

② 不安な事、こんな事があれば安心な事

模擬搜索実施におけるポイント



① 「見つける」よりも「どう対応するか」

➡ 搜索範囲を狭くし、発見しやすくする

② 搜索前に対応のポイントはあえて伝えない

➡ 対応に悩んだり、戸惑ったりする事を経験

➡ 意見交換の際、高齢者役から
良かった点、嫌と感じた点を伝える

③ 雨天決行

➡ 雨の日はより探すのが大変な事を経験

模擬搜索実施におけるポイント



④ 警察、新聞社にも協力を依頼



H28.10.31北海道新聞「みなみ風」掲載
深堀町会開催



湯川三丁目町会より
警察参加の様子



➡ 地域住民の方の**関心が高まる**ような工夫

意見交換より



自分（家族）が認知症になった場合

「不安」とを感じる事

- ①「認知症」という病気を分からない人が地域に多いと
理解してもらえず**協力を頼みにくい**
- ②以前に比べ**隣近所の付き合いが少なくなり、**
困ったときに相談出来なくなってきた
- ③自分自身が**いつ認知症になるのか不安**
- ④**火の始末**がきちんとできるだろうか など

意見交換より



自分（家族）が認知症になった場合

こんな事があれば「安心」な事

- ①近所の人が認知症を理解して、協力や見守ってくれると安心
- ②近所の人が認知症に対して偏見を持たなければ、自分や家族のことも相談できる
- ③隣近所との付き合いが昔の様に増え、お互いに気づかいが出来ると良い
- ④地域の中で軽度認知症の方とそうではない人が趣味活動等を通じて交流できる場があると良い
- ⑤若い世代も含め多世代で認知症の理解があれば、銀行や郵便局などの窓口での相談や手続きも安心してできる
- ⑥相手の気持ちになって対応してくれる人が増えると良い
- ⑦困ったときにどこに相談すれば良いか分かっているだけでも安心 など

地域住民の声として様々な意見が出された

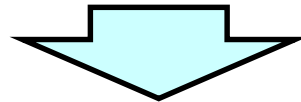
➡ この**積み重ね**が今後の地域づくりに必要

地域住民、多世代参加において(課題)

【取り組んだ内容】

- 町会を通じて案内文を全戸配布
- 小学生の参加に向けて学校（教頭先生）への相談
- 看護学生への認知症サポーター養成講座を通じて案内
- 新聞社や警察への案内

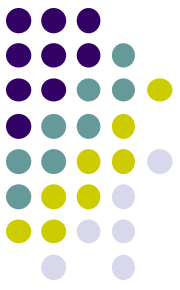
など



【参加状況】

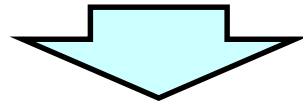
- 二町会あわせて、約30名の地域住民が参加
- 地域住民からの多世代参加（65歳未満）は0名

模擬検索を通して



皆が安心して暮らせる地域づくりの為に

- ①地域住民の一人一人が認知症に対する理解を深め、意識を変えてく
- ②住民同士が互いに支えあえる組織づくり



地域住民（多世代）と一緒に
取り組むことで、より地域に即した
意見の積み上げができる